

は じ め に

北海道立衛生研究所は、1949（昭和 24）年に設立され、1951（昭和 26）年に所報第 1 号を発刊いたしました。その後、歳月を重ねて 4 分の 3 世紀。この度、北海道立衛生研究所報第 75 集を発行することができたことは、誠に喜びに堪えません。これも、当所の活動にご理解とご協力をいただいていた道庁、道内保健所、市町村、関係機関や関係者の皆様、また、OB/OG を含めた当所のすべての職員、さらには道民の皆様ののおかげと、深く感謝申し上げます。

なお、本号より、冊子体から PDF ファイルでの発行に完全移行いたしました。これにより、関心を持つ、より多くの方々の目に触れることを期待しています。

今回は、研究報告 1 編、調査報告 1 編、ノート 2 編、資料 5 編を収載しています。テーマは食品衛生、感染症、花粉、住宅、温泉水など多岐にわたりますが、いずれも道民の皆様の日々の安心・安全な生活を支える当所の業務を反映した内容となっています。ぜひご一読いただき、ご意見等お寄せいただければ幸いです。

当所では、日々の行政検査、依頼検査に加え、各専門分野において所の予算による研究や外部資金による公募型研究を積極的に実施し、個々の研究者のみならず、グループや部単位での技術力を高めています。また成果を専門学会、地方衛生研究所の研究会、学術誌等で発表することにより、外部の研究者との意見交換や共同研究につなげています。こうして所全体として高い技術力を維持することが、健康危機事象をいち早く察知する能力や危機への対応能力の強化につながるものと信じています。

国の研究機関との協力も重要です。特に、国立医薬品食品衛生研究所や 2025（令和 7）年 4 月に、国立感染症研究所と国立国際医療研究センターが統合して発足した国立健康危機管理研究機構（略称 JIHS）とは、これまで以上に様々な点で協力関係を維持・強化していくことが求められます。また、全国の地方衛生研究所とも、全国協議会や地域保健総合推進事業などを通じて、引き続き緊密に連携してまいります。

当所では、今後も一層、道内の保健所や関係機関との連携強化に努め、日々の業務や研究を通じて、道民の皆様の健康を支えてまいる所存ですので、引き続きご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。